

泉大津市立病院新改革プランの進捗状況について（2年度目）

平成30年11月

I 概要

泉大津市立病院では、平成28年11月、国が示したガイドラインに沿って「泉大津市立病院新改革プラン」を策定し、平成32年度に収支均衡するよう医療機能及び経営指標にかかる目標を設定して、その実現に向けてさまざまな取り組みをすすめているところです。新改革プランは平成28年度から平成32年度を計画年度とし、その進行管理については、おおむね年1回点検・評価することとしており、今般、平成29年度決算状況を踏まえ、新改革プランの進捗状況を取りまとめたので報告するものです。

II 平成29年度の進捗状況

計画2年度目である平成29年度の進捗については、前年に比べて患者数が増加しているものの、入院患者1人1日当たりの診療収入額が減少しました。紹介率については、すでに平成32年度の数値目標に到達しておりますが、救急受入率については前年度と同率となっており、平成32年度の数値目標に向け、近隣病院及び診療所との連携強化など、患者数増加への取り組みを推進していく必要があると考えます。

また、収支の状況は、費用については一定の削減効果を維持していますが、前掲のとおり患者数は増加しているものの、数値目標に達せず、診療単価の減少もあって収益が伸び悩み、収支差引である経常損益については平成29年度の収支計画を125百万円下回る結果となっております。

平成29年度については、4月に事業管理者として元大学病院長が就任するとともに、公募により民間病院経験者である事務局長が着任することで経営体制を強化し、診療体制の充実化、病棟編成の見直しなどの取り組みを推進しました。今後も、引き続き平成32年度の数値目標の達成に向け、経営改善へ取り組んでいきます。

【 医療機能に係る数値 】

年度・項目		平成28年度 実績値	平成29年度 A 実績値	平成32年度 B 数値目標	A-B
一日当たりの 患者数(人)	入院	161.9	167.3	190.0	▲ 22.7
	外来	612.2	644.4	650.0	▲ 5.6
救急受入率 (%)		88.6	88.6	90.0	▲ 1.4
紹介率 (%)		41.1	42.2	40.0	2.2
逆紹介率 (%)		28.0	27.1	50.0	▲ 22.9

【 経営指標に係る数値 】

年度・項目		平成28年度 実績値	平成29年度 A 実績値	平成32年度 B 数値目標	A-B
経常収支比率 (%)		92.7	93.8	100.0	▲ 6.2
医業収支比率 (%)		87.6	89.3	95.1	▲ 5.8
一人一日当たりの 診療収入(円)	入院	47,079	46,014	46,500	▲ 486
	外来	10,358	10,210	10,500	▲ 290
病床利用率 (%)		70.4	72.7	83.7	▲ 11.0

【 経常収支の状況 】

(単位：千円，%)

年度・項目		平成28年度 実績値	平成29年度		A-B
			A 実績値	B 計画値	
医業収益		4,748,553	4,929,285	5,043,000	▲ 113,715
	料金収入	4,322,307	4,415,328	4,628,000	▲ 212,672
	その他	426,246	513,957	415,000	98,957
	【繰入】	【61,831】	【145,979】	【100,000】	【45,979】
医業外収益		534,010	505,717	530,000	▲ 24,283
【繰入】		【446,161】	【415,962】	【450,000】	【▲34,038】
医業費用		5,422,038	5,517,028	5,521,000	▲ 3,972
	給与費	3,106,503	3,098,910	3,073,000	25,910
	材料費	855,748	928,928	948,000	▲ 19,072
	経費	1,145,899	1,165,302	1,180,000	▲ 14,698
	その他	313,888	323,888	320,000	3,888
医業外費用		278,079	277,764	287,000	▲ 9,236
経常損益		▲ 417,554	▲ 359,790	▲ 235,000	▲ 124,790
経常収支比率 (%)		92.7	93.8	96.0	▲ 2.2
医業収支比率 (%)		87.6	89.3	91.3	▲ 2.0

Ⅲ 平成29年度の取組

1. 外部環境に向けた取組

- (1) 基本方針に関し、救急診療及び紹介患者の受入については、患者数増減の大きな要因となることから、毎月の院内での受入状況の報告に際し、診療科、医師別の受入件数等を表示し、職員の意識改革に努めるとともに、受入不可となった場合の事由を事例ごとに検証することで、積極的に「受け入れる」ことができるよう進めてきました。
- (2) 医療機関等との関係の深化については、新任の医師等を中心に、診療所訪問や情報誌等により専門領域などをお知らせし、紹介受入可能な症例などの周知に努めてきました。
- (3) 健康福祉部等との連携の充実化に関し、在宅患者等への取組として、「住み慣れた地域で最後まで」をテーマにした講習会に当院からも講師を派遣し、「高齢者の医療と入院・退院支援」と題し、高齢者特有の疾患構造・診療内容を中心に、入院前から退院までの流れや、社会保障制度等に関する説明を行いました。
また、引き続き地域訪問活動として、独居老人への熱中症の注意喚起のため、スタッフが自宅を訪問し、お声掛けをするとともに、病院への要望などを聞き取る活動を行いました。
妊娠～出産～育児期に関する取組では、この時期のシームレスなケアについて、泉大津市児童虐待防止ネットワーク（CAPIO）との連携を密にするとともに、当院の強みである産婦人科、新生児内科、小児科などによる周産期カンファレンスを通じて、出生前から社会的にハイリスクが想定される母子を把握し、出生後も保健センターなどと連携するなど、フォロー体制を展開しています。
- (4) 介護施設との関係強化については、医療・福祉・介護職を対象とした「泉大津市在宅医療移行研修会」を、市医師会等と共催し、在宅医療の実際や意思決定支援の方法などについて介護施設との情報の共有を図りました。
- (5) 病院広報の充実については、市広報紙やホームページ、病院玄関等へのイベントポスター掲示など、様々なチャンネルの充実化に努めるとともに、「看護の日」や「糖尿病セミナー」「健康フェスタ」などのイベント、さらに市民公開講座や出前講座などを通じて、病院のPRに取り組みました。

2. 医療の質向上に向けた取組

- (1) 医療の質向上に対する取組について、本院が掲げる「1.消化器病診療の充実」、「2.こどもと女性にやさしい病院」、「3.生活習慣病対策」、「4.高齢者にやさしい病院」という4つの目標に基づき、引き続き周産期医療や小児医療、老年医療などに重点的に取り組んできました。

また、チーム医療の推進については、栄養障害の状態にある患者など、栄養管理を必要とする患者に対し、生活の質の向上、治療促進及び感染症等の合併症予防などを目的として、栄養管理に係る専門的知識を有した多職種からなるチームによるサポートを行いました。

医療相談室業務の充実については、市医師会等と協働で、ポータルサイト（泉大津市・忠岡町 医療介護連携ポータルサイト「イカロスネット」）を開設し、入退院に関わる医療機関や介護サービス事業所の情報などを市民向けに発信できるシステムを構築しました。

健診の充実については、地域の拠点病院として各種検診を積極的に推進した結果、人間ドック295件、脳ドック85件、特定健診264件、大腸がん検診348件、胃がんリスク検査358件、胃がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん、乳がん、子宮・卵巣がんの罹患リスクが評価できるAICS(アミノインデックス)検査18件となりました。好評の休日検診については、胃がんリスク検査、大腸がん検診を実施しました。

また、がん治療への取組みの一環として、がん診療に関する専門職及び市民向けの研修会を実施し、がん診療の質の向上や関係機関との情報の共有、市民への啓発を推進しました。

各診療技術部門においても、関係機関との連携の深化を図りつつ、検査・指導内容・体制の充実により医療サービスの質の向上に努めました。

(2) 医療スタッフの確保、特に医師の確保については、4月に就任した事業管理者のリーダーシップのもと、関連大学への働きかけを強化し、整形外科医や放射線科医を確保するなど、その充実に努めました。

(3) 災害拠点に関しては、保安上の必要により計画停電を実施し、設備の点検・更新を行うとともに、停電時の行動を振り返ることで、病院災害マニュアルの見直しなど、今後の対応の検討を行いました。

3. 健全経営の確保に対する取組

(1) 効率的な業務の取組に関し、病棟の有効利用を図るためベッドコントロールを行う部署を立ち上げました。また、診療報酬改定によっては病院収益に大きな影響が生じる可能性もあるため、精力的な情報収集に努め、地域の医療ニーズ、病棟編成の最適化について検討を行い、平成30年3月に地域包括ケア病棟を導入しました。

(2) 経費の削減に関し、診療材料費について、引き続き安全性や機能性が確認できた診療材料等を安価な同等品へと切り替えを進めました。

委託業務について、前年度と比べて病床稼働率の上昇などから、変動的な費用について増加した業務もありましたが、業務内容の見直しと適正な金額についての検討や交渉を行い、医療機器保守など固定費用の一部について引き下げを図ることができました。

医療機器の導入については、導入機種を指定せずに競争入札を行うなどの手法を講じ、経費抑制に努めました。

また資金の調達において、銀行からの借入金の一部を一般会計からの借入に振り替えることにより利息の減額を図るなど、費用の節減に努めました。

(3)現在休止中の市民ボランティアの会に代わって、職員によるボランティア委員会を立ち上げ、およそ月1回の会議において活動内容を検討するとともに、職員に呼びかけを行い、病院周りの清掃や花壇の手入れ、七夕の飾りつけやクリスマスコンサートなど院内で季節のイベントを行いました。

4. 住民の理解のための取組

当該プランに基づく病院の経営状況や取組など市立病院の動向について、プラン1年目の点検・評価を行い、市広報紙やホームページを通して公表しました。

引き続き、市立病院に対する住民理解に向け、様々な機会を捉え、情報発信等に取り組んでいきます。